

啓発活動重点目標～人権啓発キャッチコピー～
「誰か」のこと じゃない。



梅切らぬバカ

加賀まりこ 塚地武雅

渡辺いっけい 森口瑠子 斎藤汰鷹 / 林家正蔵 高島礼子

監督・脚本：和島香太郎

配役：加賀まりこ・塚地武雅・渡辺いっけい・森口瑠子・斎藤汰鷹・林家正蔵・高島礼子

大きな梅の木に見守られ、母と息子は今日も生きる。ゆっくりと、丁寧に。
人と人がつながり、共に生きることの喜びを描く。

©2021「梅切らぬバカ」フィルムプロジェクト

法務省委託事業人権啓発映画会(日本語字幕入り)

■とき 12月1日(日) 9:30 開場 10:00 開演 11:45 終了予定

■ところ 白山市鶴来総合文化会館クレイン ホール

※当日は、障害者施設で作られた商品の販売を行います。

お問い合わせ先 ☎227-6040 FAX227-6205 (野々市市地域政策部市民協働課)

入場無料
申込不要

主 催／野々市市・野々市市教育委員会 後 援／野々市市社会福祉協議会・野々市市民生委員児童委員協議会

共 催／白山市・石川県人権啓発活動ネットワーク協議会 協 力／社会福祉法人富明会 けやき野苑・社会福祉法人松の実福祉会 松の実園

一緒に笑って、たまに怒って涙して。

このありふれた毎日が宝物。

都会の古民家で寄り添って暮らす母と息子。ささやかな毎日を送っていたが、息子が50回目の誕生日を迎えた時に母はふと気づく。「このまま共倒れになっちゃうのかね？」
母親と自閉症を抱える息子が、社会の中で生きていく様子を温かく誠実に描く本作。包容力あふれる母親を演じるのは、54年ぶりに主演を務める加賀まりこ。軽口を叩きながらも、小柄な身体で大きな息子の世話をする姿はとてとてもチャーミング。だからこそ、やがて訪れる“息子が1人で生きる未来”を案ずる横顔が、より一層切ない。息子役にはNHK連続テレビ小説『おちょやん』など俳優としても活躍中の塚地武雅（ドラクドラゴン）。地域コミュニティとの不和や偏見といった問題を取り入れながらも、親子の絆と深い愛を描き、あたたかな感動をもたらす。



父親代わりの梅の木が運んでくれた“小さな奇跡”とは・・・？

山田珠子は、息子・忠男と二人暮らし。毎朝決まった時間に起床して、朝食をとり、決まった時間に家を出る。庭にある梅の木は伸び放題で、隣の里村家からは苦情が届いていた。ある日、グループホームの案内を受けた珠子は、悩んだ末に忠男の入居を決める。しかし、初めて離れて暮らすことになった忠男は環境の変化に戸惑い、ホームを抜け出してしまふ。そんな中、珠子は邪魔になる梅の木を切ることを決意するが・・・。

ことわざ

「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」とは？

樹木の選定には、それぞれの木の特性に従って対処する必要があるという戒め。転じて、人とのかわりにおいても、相手の性格や特徴を理解しようと向き合うことが大事であることを指す。



©2021 「梅切らぬバカ」 フィルムプロジェクト